

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症対応型グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173800350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットが廊下でつながっており、スタッフ、利用者様が自由に行き来できますので、お互いに声掛け合い、行事等を一緒に行い、外にいけない時などでも交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR静内駅から車で10分の、地域交流センター、訪問介護、デイサービス、支援ハウス等が集約した福祉村に位置するグループホームで、代表者は「グループホームだからこそ認知症になっても普通の暮らしができる」をモットーに、地域交流に力を入れている。日常での触れ合いはもちろん、法人主催の行事に地域の方を多数招待し交流を深めているほか、地域の高中生・中学生に毎年、就業体験の場を提供している。また、事業所を退職した職員と現在の職員が合同で「ひよっこ踊りの会」をつくり、事業所行事のほかに、地域の行事に参加し「ひよっこ踊り」を披露して楽しんでもらっている。町との連携にも積極的で、法人研修や運営推進会議、行事には町の担当者に参加してもらっている。ターミナルケアに力を入れており、マニュアルを整備し、札幌のターミナル研修に職員を参加させ、事業所内での緩和ケアのミーティングには薬剤師の方に話をしてもらっている。実際の看取り介護には医療機関と連携して積極的に対応している。事業所内は、居間と食堂が一体的で広く、天井も高く明るい造りで、段差や機能性を考慮したテーブルを使用するなど利用者の利便性に配慮している。外出の機会も多く、静内川の白鳥や観光農園のポニーやペンギンの見学、静内温泉での入浴を楽しんでいる。また、季節の行事では、花見や紅葉見学、恵庭のえこりん祭り見学など盛りだくさんである。火災や地震など災害対策への備えも十分である。

V. サービスの成果に関する項目(ユニット1アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと共に理念を共有しケアの実践に取り組んでおります。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念に加えて、各ユニットごとに独自の介護理念がある。法人・各ユニットの介護理念は、毎朝の申し送り時に全員で読み上げられ共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会し、新聞集め等に参加しており、また、事業所の行事(避難訓練等)に参加していただいております。	町内会行事の草むしりや清掃に参加し、法人主催の夏祭り・クリスマス会に地域の方が大勢参加している。また、毎年地域の高校生と中学生に就業体験の場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談を受けたり、ショートステイ、デイサービスも受け入れ、いつでも見学に来ていただけるようお話をさせていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告をさせていただき、意見が出された時は、事業所内で話し合いサービス向上に活かしております。	運営推進会議は2か月毎に行われ、町内会長・副会長や地域包括支援センター職員、家族等が参加し、事業報告や意見交換を行い、外部評価・自己評価についても話し合っている。議事録は全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の行事には、町長、町職員の方々に参加していただき、ホームの様子等を伝え、協力関係を築いております。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加し、法人主催の研修には町職員の栄養士に講師をお願いしている。事業所の行事にも町の職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を三ヶ月に1回開き委員会での結果を、事業所ミーティングで報告し、日々のケアに取り入れています。	法人合同の拘束・ヒヤリハット委員会が開催され、「10の禁句」が事務所や廊下に掲げられ職員間で共有されているが、国が示している「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」についての理解やマニュアルの整備については十分とは言えない。	身体拘束マニュアルを整備し、「身体拘束ゼロの手引き」をもとに、禁止の対象となる具体的な行為の理解を深めて行くことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を三ヶ月に1回開き、ホームでの現状を話し合い虐待の防止にあたるか、また解決策を事業所ミーティングで話し合いしております。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、研修の機会がありませんでしたが、昨年は役場の方にお話をいただいておりますが、現在は利用されている方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改定時等に文章にし渡し、十分な説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議又は来訪時等に家族の意見を聞き、運営に反映させております。	家族の訪問時には、利用者の各担当職員が応対し意見を聞いている。また、毎月の「お便り」には担当職員のコメントを入れ毎月家族宛に送付している。家族の意見や報告事項は、全て記録して保存している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1.月に2回の事業所ミーティングにおいて職員の意見を聞き、毎月1回の管理者会議において反映させている。 2.年1回の全職員との面談を行って意見を聞いている。	月2回のミーティングで、代表者と管理者が職員の意見を聞いている。入浴用の車椅子購入やウォシュレットの整備、給料についてなど自由に意見交換している。また、代表者が、年1回職員の個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.職員個々の勤務希望を考慮している。(休みの希望など) 2.職員を多めに配置し、労働環境の改善。 3.家族の事業所利用には優遇措置がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1.社内、社外研修の機会を多く設けている。 2.介護福祉士、ケアマネ等の資格取得の学習環境がある。 3.視察者の受け入れも多く、職員のレベルアップになっている。 4.事業所の事例発表にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1.職員の交換実習、他の事業所からの実習、体験研修の受け入れ。 2.他事業所との交流や情報交換をし、認知症GH協会にも加入している。 3.同業者に資格者が不足している場合の出向。利用者の紹介。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望に耳を傾け、不安なことが有る時には、安心できるまで説明することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との話し合いの場で希望、要望をたずねており、入居後も面会時など話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を聞いた上で、利用可能なサービスを説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物を片付けを入所者様と一緒にしている事で暮らしを共にしている関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に相談することで共に支える関係になっております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの深い物や大切にされている物を自室にしている方もおり、友人がホームに遊びに来られることも大切にしています。	約3分1の利用者に年1～2回、知人・友人の訪問があり、お茶を提供してゆっくり話をしてもらっている。急な訪問で食事を提供することもある。また、以前勤務していた職員が、利用者にマッサージを施しに毎週訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そりの合わない入居者同士と一緒に座らせない等の配慮をしています。仲良く助け合える関係も作れています。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでのイベントやクリスマス会など招待状等を出し、交流に努めています。退去後もご家族の相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、その方らしく生活できる様努めています。至らない点が生じた場合は再度ケアプランの見直しを計るなど対応しています。	センター方式のアセスメントシートの主要項目を絞って、4～6か月以内に内容を見直している。また、職員は、利用者の表情や態度を見ながら思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される時点でご家族に協力していただき、センター方式を活用し、馴染みの環境を作れる様、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を見守り、気づいた事がある場合、アセスメントノートに記入したり、職員間で申し送りをし、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で入居者様の日常生活での課題について、毎月話し合いを行い意見等を介護計画に活かしています。	毎月のカンファレンス、ケース会議の記録を基に、4～6ヶ月毎にモニタリングし、介護計画を見直している。日々の記録は介護計画を意識しながら記載するように指導しているが、全職員にはまだ浸透していない。	日々の記録を綴ったファイル見開きに介護計画を貼るなどの工夫をし、全員が介護計画を意識した日々の記録を作成できるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、個別に日々の様子やケアの状況を記録し職員間の情報共有、ケアミーティング等で話し合い実践し計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望で外出や活動を望まれる方には、ボランティアで行っているデイサービスに参加していただくことも有ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の協力でお茶会、紙芝居等で楽しみを支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携の医療機関があるので、すぐに対応できる状況にあり、本人の希望により他の医療機関も利用しています。	内科・歯科医師の定期往診が行われているが、かかりつけ医の選択は自由である。「医療連携日誌」「薬局連絡ノート」「受診表・医療連携記録簿」等、利用者ごとに医療関係記録が整備されている。	

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等は、その都度看護師に相談しています。それぞれ職員が気づいたことなど訪問看護の際に伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供を行い、安心して治療できる様努めています。早期退院できる様、どの段階でホームでの生活が可能か等相談しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度マヒや終末期に対する方針は早い段階で説明しております。主治医からご家族へ病状説明の段階を見極め最終的な希望など聞いています。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を利用者・家族に示し説明を行い、重度化した段階では「見知り介護計画書」を示し家族等から同意書に署名捺印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を定期的に受け、実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し避難訓練を行っています。訓練には自治会の方も参加し協力体制が築けております。	消防署の協力を得て、毎年各1回、昼・夜間対応の避難訓練が行われている。また、法人合同の地震対応の大規模な訓練も年1回行われ、町内会役員や地域の方が参加している。救急救命訓練は年2回行われ、災害時の備品も準備されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大声で対応しない。本人のプライドに配慮した言葉で接しています。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本とし、希望があればより親近感のある呼びかけをする場合もある。禁句集を各所に掲示し、接遇研修も行っている。個人記録は周囲から見えない場所で記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を引き出す様な声掛けに努めています。飲み物、食べ物等、本人の希望を出来る限り聞いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても本人のペースに合わせた暮らし方を支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服を準備したり、ご本人が行えない身だしなみを介助で支援しております。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材がある時など、その方に他の食材で調理するなど配慮しております。調理の準備を手伝ってもらうことも有ります。	利用者は野菜の皮むき、食器洗い、食器拭きなどを手伝っている。職員や総合施設長、代表者も一緒に同じ食事をしており、誕生日には希望を聞いて食事を作り、時には出前を取ったり外食も行っている。畑で採れた野菜も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を見て職員は、一人ひとりの摂取量を把握し、必要な声掛けや支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っていただいております。ご自身で行えない方には応じた介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握のため、排泄チェック表を記入し声掛けや介助で自立に向けた支援を行っています。	ほとんどの利用者がトイレ誘導を必要としており、排泄チェック表でパターンを把握して誘導している。誘導時に耳元で声かけしたり、トイレでは、下半身にバスタオル掛けるなど羞恥心に配慮している。日中は全員がトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分摂取に心掛け便秘予防に努めています。主治医の指示で下剤を使用される方もおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日入浴予定していなかった方でも本人が希望されはられることもあります。拒否をされる方への声掛けの工夫など、その人にあった入浴を心掛けています。	毎日入浴可能で、各利用者が概ね午後の時間帯で週2回以上の入浴を行っている。拒否をする方は少ないが、その場合も対応する職員を交代するなど対応している。毎月、静内温泉に出かけたり、入浴剤を使用したりするなど楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望で昼寝される方もおります。就寝中には気になる光や音に配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の目的や副作用、用量をお薬情報で職員は確認しております。決められた処方薬が安全に服薬できるよう支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり、洗濯物たたみ、茶碗拭き等を本人が望み行っている方もおります。体操、カルタ等を行い気分転換を計っております。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買物や、他のデイサービスに遊びに行ったり、季節ごとに花見や温泉、外食等外へ出る機会を多くしています。また、自治会の行事にも参加しています。	広い庭や公園を散歩し、事業所の畑で野菜の収穫をしたり、静内川の白鳥や観光農園のポニーやペンギンを見に行ったりしている。静内温泉にも頻繁に通っている。年間行事では、花見や紅葉見学、恵庭のえこりん祭り見学など外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が出来る方はご家族の承諾の上で持っていていただいています。他の方は必要に応じて、その都度お渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方に電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時はカーテンをしめたり、テレビの音や音楽の音量に気をつけています。ホーム内は、季節ごとに飾り付けをしています。	居間と食堂が一体的で広く、窓側の天井も高く全体が明るい。壁には季節の装飾や利用者の写真、絵画、風景写真などを掲げ、観葉植物や亀の水槽、絵本や紙芝居などを置き楽しく過ごせる環境を作っている。段差や機能性を考慮したテーブルを使ったり、椅子を各所に配置するなど利用者の使いやすさや寛ぎやすさに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェアを置き、いつでも休めるようにしています。入居者同士で居室を行き来していることもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人馴染みの家具や仏壇を置いています。ご本人と話ながら配置を決めています。	居室入口に利用者の写真を掲げている。室内には利用者の使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫、タンス、携帯電話などを持ち込み自分らしく過ごせる場所となっている。壁にも習字や絵などの作品やカレンダーを飾り、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の歯ブラシやコップに名前を書き、見えるように置きご本人が分かるようにしてあり、自立した生活に努めております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症対応型グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にここに来て良かったと思っていただける様、外出、誕生会、ボランティアの方々に来ていただき、少しでも楽しみを見つけ出すようにしております。また、ユニット内を自由に行き来し、行動範囲を広げるようにしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173800350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(ユニット2 アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自に介護理念を立て、日々スタッフ同志実践に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、避難訓練やホーム行事、町内会の行事などに参加し交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学、行事に参加して頂けるよう声かけや案内し、参加して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し夏祭り、クリスマス会、避難訓練など参加して頂きその行事での意見を参考にしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域連合とは情報の共有をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会は3カ月に1回開き、その内容をホーム内のミーティングで話し全員の意見を聞き、日々拘束のないよう取り組んでおります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に近いケースがあると委員会でも取り組み、ホームでも話し合いをして防止しています。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しましては研修で勉強してきましたが、成年後見制度に関しましては勉強していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族、本人と一緒に話を聞いて頂き、いつでも説明できるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や、家族が来られた時に少し時間を作って話をしたりします。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1、月に2回のホームミーティングにおいて職員の意見を聞き、毎月1回の管理者会議において反映されている。 2、年1回全職員との面談を行なって意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1、職員個々の勤務希望を考慮(勤務表づくり)、年休) 2、職員を多めに配慮し、労働環境の改善。 3、家族のホーム利用には優遇措置がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1、法人研修、社外研修の機会を多く設けている。 2、介護福祉士、ケアマネ等の資格習得の学習環境がある。 3、視察者の受け入れも多く、職員のレベルアップになっている。 4、ホームの事例発表にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1、職員の交換実習、他の行事からの実習・体験研修の受け入れ。 2、他の事業所との交流や情報交換をし、認知症グループホーム協会にも入っている。 3、同業者に資格者が不足する場合の出向。利用者が居ない場合の紹介。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんと面談をし、話を聞くようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族と面談をし困っている事、不安等を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に何が出来るか、日中どのような事をされているか情報収集しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事をして頂き、出来ない事は一緒に行うようになっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時に話をしたり、家族の希望を聞くようになっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が会いに来られたり、こちらから出向いたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性の方が多いので皆で出来る事を一緒にお手伝いしてもらっています。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いした時には挨拶やお話をしております。年賀状を出し合っている家族もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人に対しスタッフ1人の担当者を決め、ミーティング時には担当者を中心に1人ずつについて話合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、わからない事は家族にも聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お手伝いをお願いしたり、隣のユニットまで運動してもらったりしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者とその家族の言葉をケアプランに反映するようにしています。実行できることを考え、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間気付いた事を記録し、申し送りをしてスタッフ全員共有しながら、問題点はカンファレンスで話合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが目の前にあるので、遊びに行く等しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方によるお茶会、読み聞かせなどの方に来て頂き、一緒に楽しむ事を出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度往診に来てもらい、月に1度は訪問看護に来てくれています。皮膚科にも週1回往診に来てもらい、必要に応じて受診もしています。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が変わりがあればスタッフ、看護師にすぐ連絡し、アドバイスを頂きます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族との情報交換をしっかりとし、いつ退院しても良い環境をつくっております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師や家族との連絡をしっかりとしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応できるようにはしています。又、研修を行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの避難訓練は定期的に行っています。すぐ来れるスタッフのみの連絡網を作成しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	残存能力を活かして頂けるよう、本人が出来る事はして頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を出来る限り聞くようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が選んだ事をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応えるよう、何かあった時には買い物へ行ったりするようにしております。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶わん拭き等を手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量を把握し、水分を取って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けをしトイレ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや薬で調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその時の利用者様の状況に合わせて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じてお昼寝をして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認が出来るようにお薬用のファイルを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日にドライブや外出に出かけています。		

認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やヘアカットへ出掛けたり、季節に応じて散歩やドライブへ行く等しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行かれる時は、そばにスタッフが付き、お金を払って頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする時はダイヤルはスタッフが手伝い、お話されております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどに花や季節感が出るように装飾しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で違和感がないように座って頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、好きの物を持ってきて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように矢印等を書いています。		

目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」

作成日：平成 26年 3月 12日

市町村受理日：平成 26年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5・6	身体拘束マニュアルが整理されていない。	身体拘束マニュアルを整理する。	身体拘束マニュアルをわかりやすく、整理します。	3ヶ月
2	26	ケアプランを立てているが実行した記録がない。	ケアプランを意識した記録をつけていく。	ケアプランを4ヶ月ごとに見直し、プランにそった記録をして行く。	5ヶ月
3	33	重度化・終末期ケア対応指針にサインの欄がない。	サインをもらえる様に用紙を整理する。	書類を整理しサインをしていただくようにします。	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。